

# 第5回 高2英語

## 総評

今回の試験では、リスニング、語句整序、和文英訳、自由英作文、長文読解といった多様な出題により、受験者の総合的な英語力を測ることを目的としている。今回の結果を見て、自分の得意な分野と苦手な分野を把握し、的を絞った学習計画を立てられるようにしたい。

また、総得点だけでなく、大問ごとの出来や、誤答の内容も把握してほしい。特に作文問題や、長文問題中の記述形式の問題などは、一朝一夕に得意になる分野ではないが、大学入試に向けて必ず実力をつけなければならない部分である。模範解答と解説をよく読み、自分の答案に足りなかった部分や工夫できる点を見つけるようにしよう。

## 問題別講評・採点基準

### 1 リスニング

リスニングでは必ず放送前に設問に目を通し、メモを取りながら音声を聞くようにしよう。

#### 問題A

(5) いずれのイラストも紛らわしいので説明をよく聞く必要があったが、よくできていた。誤答としてはcが多かった。単純だが方角の聞き取りを間違えるだけでこのようなミスにつながる。

#### 問題B

**Part 1** (4) 2つともできて与点した。(ア)は medical としたものが散見された。直前の be used to ~を「～に慣れる」という意味に解釈し、to 以下を名詞句にしようとしたものと思われるが、それではこの文全体の意味が放送内容に合わなくなってしまふ。(イ)は放送内容には含まれない語のため難しかったであろう。different では、放送文内の remote が持つ「距離の遠さ」の意味合いが出ない。

**Part 2** それぞれ、完全に書けて与点とした。

(ア) wearables 1語で wearable devices を指すことに気づかないと難しいだろう。このように、一般的に形容詞として使われる語が名詞的に扱われる場合もあることを覚えておくとよい。また、冒頭の to を聴き逃した答えも多かった。(イ) よくできていたが、make efforts の efforts を複数形にしてい

ない誤答が目立った。続く toward の t の音とつながって聴き取りにくいのが、make an effort という基本形を知っていれば気づけただろう。

## 2 語句整序・和文英訳

### 問題A 語句整序

英文中の整序問題で、日本語も与えられていない。前後の文脈に合わせて、与えられた語句から文を作り上げることができるかどうかを見た。

(1) green と ice の対比については理解できている答案も多かったが、as opposed to ~ (～と対立するものとしての) の語順で誤りが目立った。

(2) the size の位置の誤りが目立った。… times the size of ~ = … times as large as ~ (～の…倍の大きさの) は難易度の高い表現で差がついた。

(3) were to melt から始めた誤答が目立ったが、下線部の後の entirely とのつながりも考えておきたかった。また、倒置に気づけなかった答案も多かったため、解説で考え方を確認しておこう。

(4) この段落の内容をまとめた箇所。氷の厚さと年代、氷の層の並ぶ順番を理解して読めていたかがポイントだった。

(5) provide A with B (AにBを提供する) を使った誤答が目立った。知っている表現に飛びつかず、前後をきちんと読んで判断することが重要。

### 問題B 和文英訳

ビジネスのための英語学習をテーマにした和文からの出題。訳しやすい日本語に直してから英訳する姿勢を保ちつつ、基本語を用いて簡潔に表現できるようにしたい。減点された部分を必ず見直し、同じ間違いを繰り返さないようにしよう。

①「英語に堪能になる」は比較的よくできていた。苦勞が見えたのは「活躍の場を広げる」で、expand the place where I can work などと直訳した答案が多かった。ここでの「場」とは、つまり「活動の範囲」や「担当する業務の種類」のことだと読み換えられると、真意が伝わりやすい訳になる。

②「英語が通じる」は make oneself understood in English がよく使われる表現なので、覚えておくとよい。「会話ははずんだ」は the conversation was successful など、意味をきちんと理解した解答も多く見られた。

③「Aが…すればするほど、Bは～する」、「…するのにな～すぎることはない」はともに和文英訳で問

われやすい表現だが、どちらもよく書けていた。

### 3 自由英作文

文法・語彙と内容・構成の2つの観点に分けて採点した。指定語数に対する不足・超過については、5点の減点。ただし、指定語数の半分(30語)未満のものについては、文法・語彙点を与えていない。

○文法・語彙点 ……10点

誤りの数に応じて、10点から0点のいずれかの点数をつけている。

○内容・構成点 ……10点

内容に応じて、10点、7点、4点、0点のいずれかの点数をつけている。以下のような答えは内容・構成点の減点対象となる。

- ・賛成・反対の理由の説得力が欠けるもの
- ・賛成・反対の論旨に一貫性がないもの

今回のテーマは、レストラン入店における年齢制限に対する賛否を問うものだった。よく見かけるテーマではなかったかもしれないが、レストランで子供連れの家族と居合わせた経験を踏まえれば、書きやすいテーマだったのではないだろうか。解答例・別解の他に、賛成例として「子供向けのメニューや椅子などを準備するのに手間やお金がかかる」、反対例として「子供連れで行くことができるレストランが少なくなると、子供連れでの外出が難しくなり、少子化につながる恐れがある」なども挙げられていた。一方で、「小さい子供はうるさいから」など、主観のみの主張でとどまっているものもあった。意見を述べる英作文では、自分とは異なる意見の人に対して説得するという視点を持って取り組みたい。理由を述べる際には、具体例やエピソードを挙げるなどして、読み手が納得できるような根拠を示すように心がけよう。

### 4 長文読解

物理学者である筆者が、男女同権主義団体から抗議を受けた際の出来事を描いたエッセイからの出題。筆者の妹と筆者の友人とのやりとりや、筆者の著書で扱われたエピソードなど、注意して読まない状況を読み間違いやすい箇所もあったと思われるが、筆者の最後の発言のオチを楽しんで読んでほしい内容である。

(4) 皮肉も含めて本文の流れが理解できているかどうかを試す問題。男女の対比はこのエッセイの核

となるころなので、わからなかった人は解説を読んで確認しておこう。

(5) 文頭の For を「～のために」「～にとって」と訳した答案が多かった。For 以下に women (do indeed) suffer from ~ という SV の形があることから、この For の役割を考えて解答したい問題だった。前後の流れや英文中の単語から何となく解釈するのではなく、文構造をきちんと解析して読む癖をつけよう。単語や表現については、まず presence (同席；出席) の誤訳が目立った。形容詞 present (出席している) と合わせて覚えよう。また、serve to … の訳脱も多かった。「(あなた方が出席したことが) …するのに役立つ」、「(あなた方が出席したおかげで) …することができる」などと訳すと自然な訳となる。

### 5 長文読解

古代からの人間と犬の関係について述べた文章。人間と犬との関係がどれほど古くから続いているか、他の動物との関係とどう異なるかという点を念頭に置いて読んでほしい。

(1) 挿入的に使われている分詞構文 buried ~ の構造を取り違えた誤訳が多く見られた。また、There lay ~ は There are ~ 構文とほぼ同じ捉え方ができるが、ここを誤訳したことによる主語の取り違えが非常に目立った。なお、puppy はそのまま「パピー」とはせずに「子犬」と日本語にすること。和訳問題や説明問題では、日本語として広く定着しているものを除いて、カタカナは用いないようにしましょう。

(2) 誤答が多かったのは b。ここは 1977 [S] is [V] ancient history [C] という構造であることを見抜くことがポイント。下線部以降の内容から、ancient history という比喩表現が意味する内容を的確に捉えよう。

(4) 「…変化した。」「～の進化を引き起こした。」のように、主語と動詞から成る‘文’として書いてしまった答案が目立った。直前の coevolution と同格関係にあることを確認しておこう。

(5) かなりの難問と言えよう。ここは“domesticating”(=引用符が付いている) が比喩であることも読み解く鍵となる。